

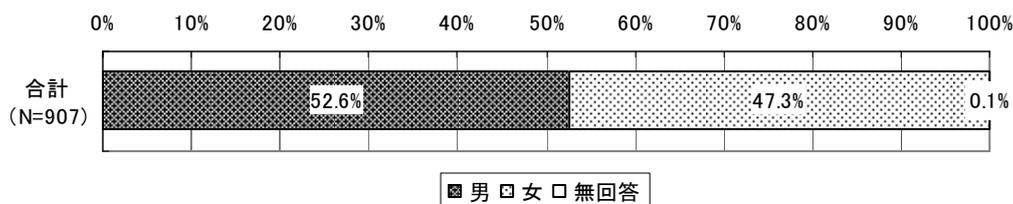
6.5 患者の状況(1)【施設向け患者調査票（脳血管疾患等リハビリテーション）】

(1) 基本情報

1) 性別

患者の性別についてみると、「男性」が52.6%、「女性」が47.3%となっている。

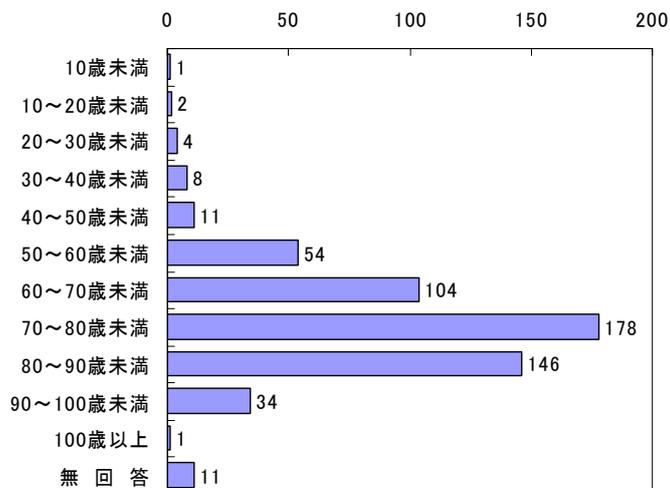
図表 6.5-1 患者の性別



2) 年齢（平成 18 年 12 月 1 日時点）

患者の年齢についてみると、「70～80 歳未満」が 178 名で最も多く、次いで「80～90 歳未満」が 146 名となっている。

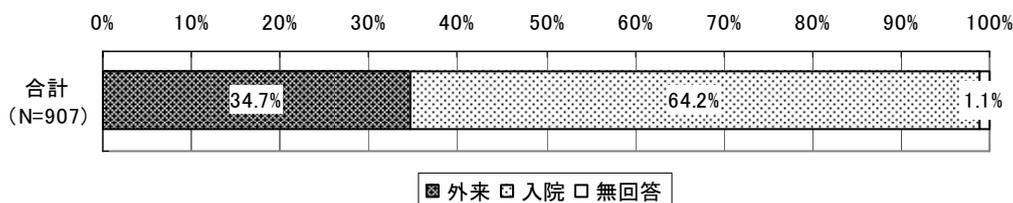
図表 6.5-2 患者の年齢(N=554)



3) 診療区分

診療区分についてみると、「入院」が64.2%、「外来」が34.7%となっている。

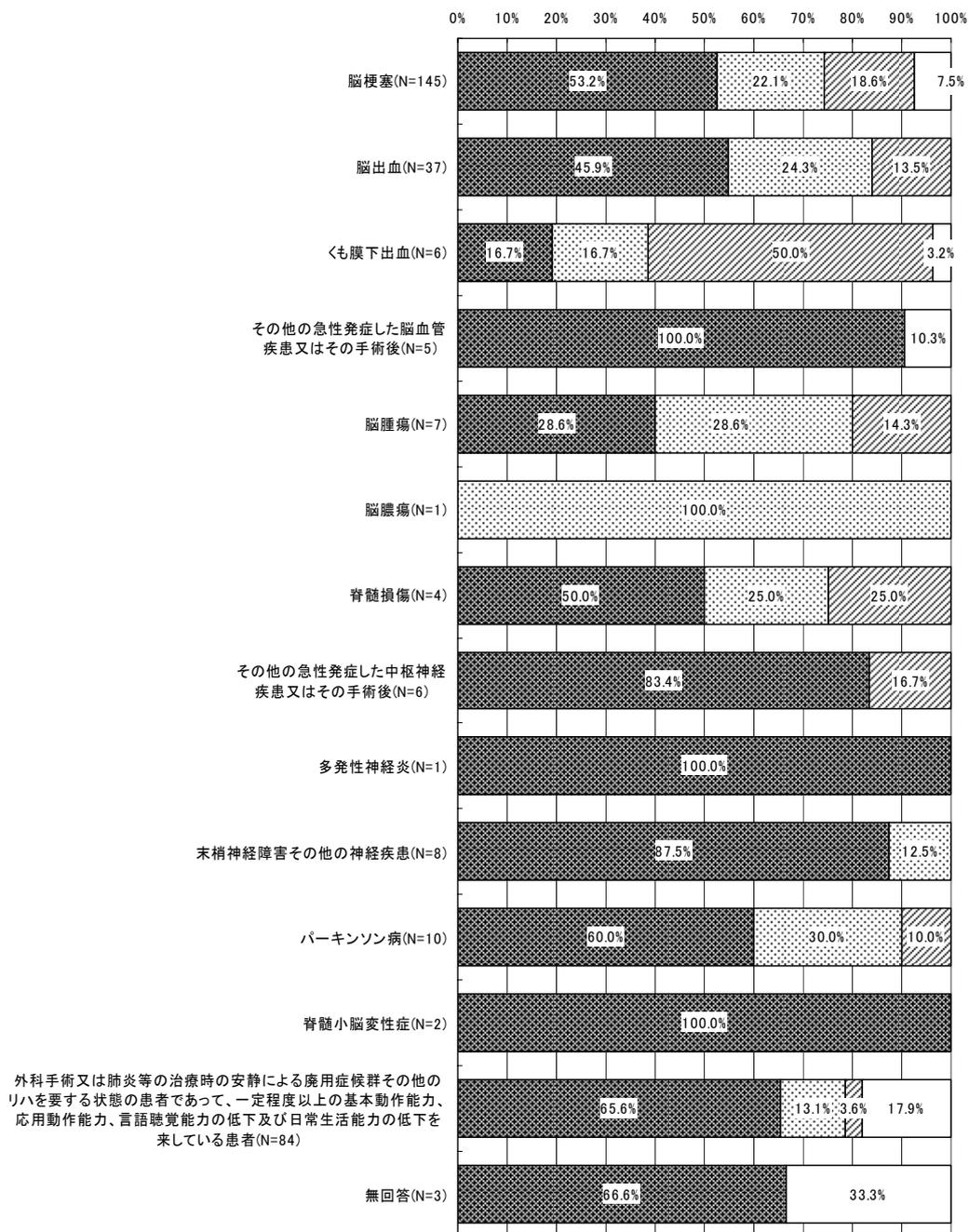
図表 6.5-3 診療区分



(2) 算定対象疾患と算定期間

平成 18 年 4 月以降に調査対象医療機関でのリハビリテーションを開始した患者における算定対象疾患は、「脳梗塞」(145 件)が最も多く、次いで「外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群その他のリハを要する状態の患者であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力の低下及び日常生活能力の低下を来している患者」(84 件)となっている。10 件以上のケースのある算定対象疾患について、算定日数の上限をもって終了した患者の割合をみると、「パーキンソン病」(30.0%)が最も多く、次いで「脳出血」(24.3%)となっている。

図表 6.5-4 算定対象疾患と算定期間



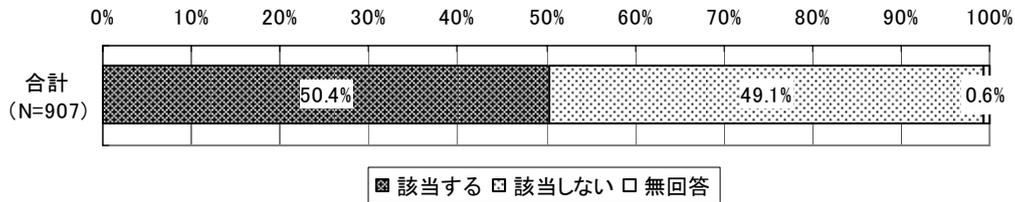
■ 上限前(135日まで)に終了 □ 上限(136~150日)をもって終了 ▨ 上限後(151日以降)に終了 ○ 無回答

(3) 除外疾患

1) 除外疾患の有無

除外疾患の有無についてみると、50.4%が「該当する」としている。

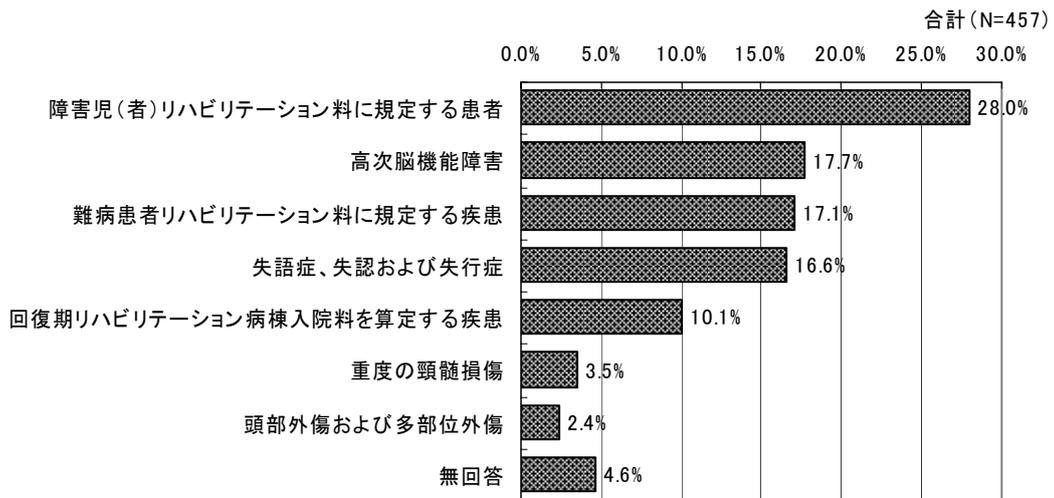
図表 6.5-5 除外疾患の有無



2) 除外疾患に該当する場合、その適用項目

除外疾患に該当する場合、その適用項目についてみると、「障害児（者）リハビリテーション料に規定する患者」(28.0%)が最も多く、次いで「高次脳機能障害」(17.7%)となっている。

図表 6.5-6 除外疾患に該当する場合の適用項目

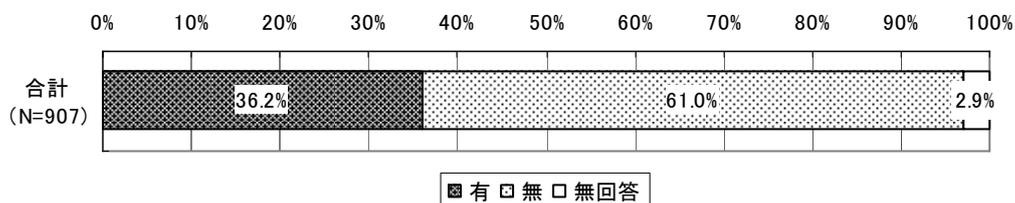


(4) 算定対象疾患以外の疾患・障害

1) 算定対象疾患以外の疾患・障害の有無

算定対象疾患以外の疾患・障害の有無についてみると、36.2%が「有」としている。

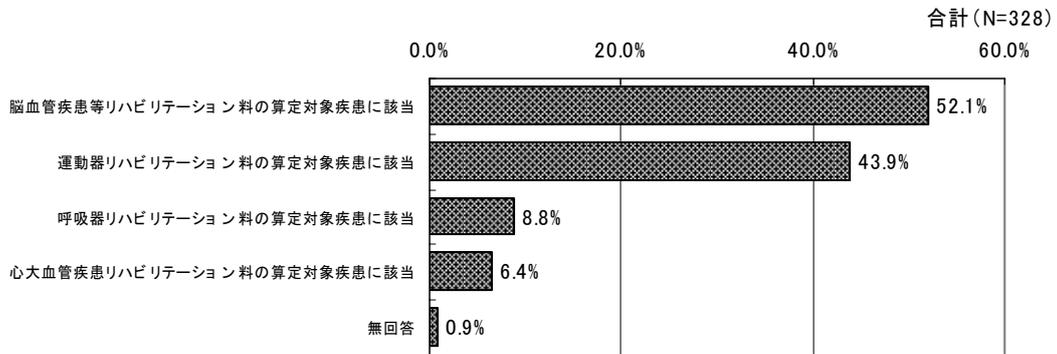
図表 6.5-7 算定対象疾患以外の疾患・障害の有無



2) 該当する場合、その疾患・障害 (複数回答)

算定対象疾患以外の疾患・障害を有する場合、その疾患・障害についてみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料の算定対象疾患に該当」(52.1%)が最も多く、次いで「運動器リハビリテーション料の算定対象疾患に該当」(43.9%)となっている。

図表 6.5-8 算定対象疾患以外の疾患・障害を有する場合の疾患・障害

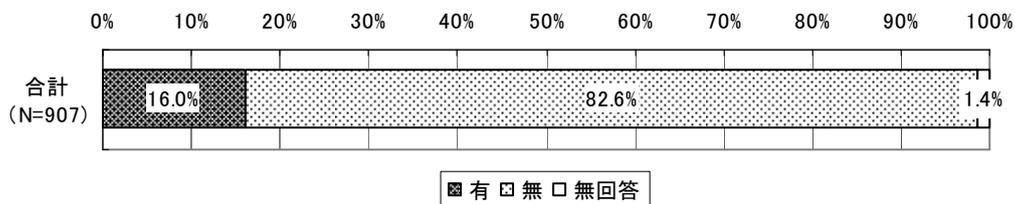


(5) 過去に算定していたリハビリテーション料

1) 過去に算定していたリハビリテーション料の有無

過去に算定していたリハビリテーション料については、16.0%が「有」としている。

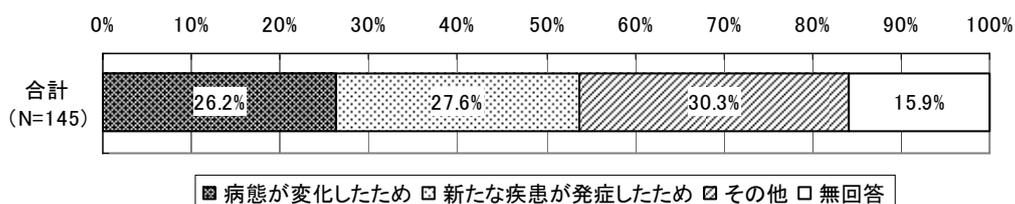
図表 6.5-9 過去に算定していたリハビリテーション料の有無



2) 現在のリハビリテーション料に切り替えた理由

現在のリハビリテーション料に切り替えた理由については、「新たな疾患が発症したため」(27.6%)が最も多く、次いで、「病態が変化したため」(26.2%)となっている。

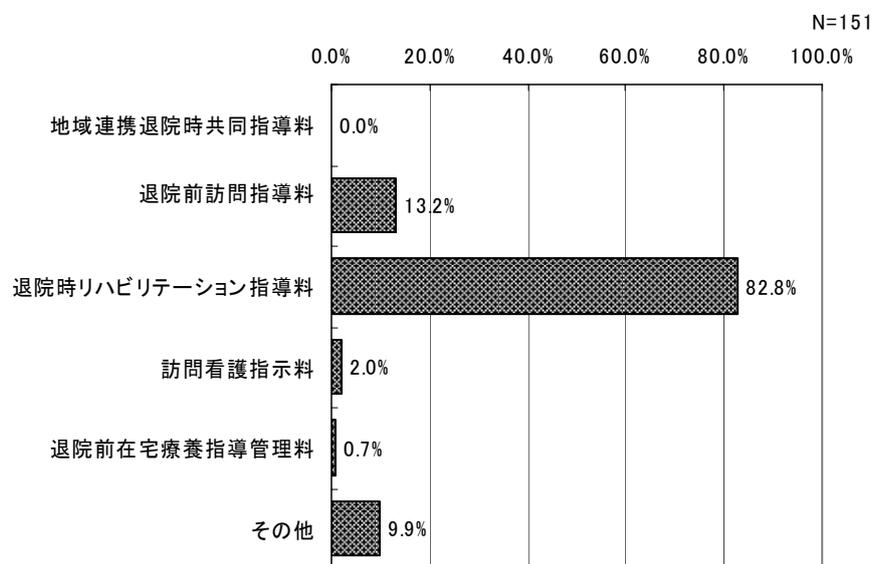
図表 6.5-10 現在のリハビリテーション料に切り替えた理由



(6) その他の算定項目（複数回答）

「脳血管疾患等リハビリテーション料」以外に算定した項目については 907 名のうち 151 名が算定しており、内訳は次のとおりとなっている。

図表 6.5-11 その他の算定項目

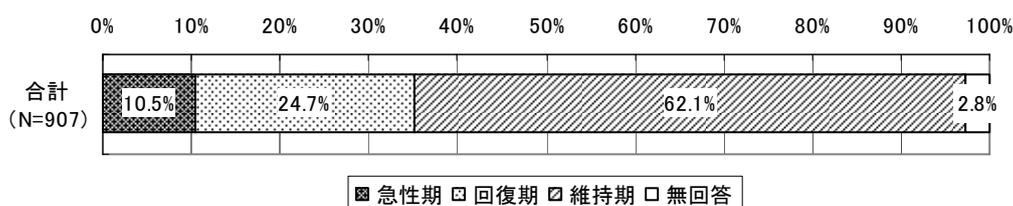


(7) 調査時点の患者の状態

1) リハビリテーションの段階

リハビリテーションの段階については、「維持期」（62.1%）が最も多く、次いで、「回復期」（24.7%）、「急性期」（10.5%）となっている。

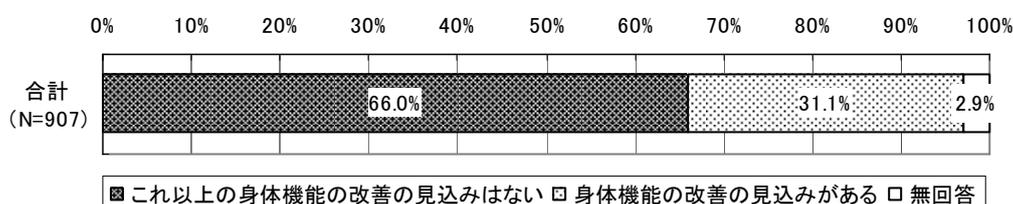
図表 6.5-12 リハビリテーションの段階



2) 状態の評価

状態の評価については、「これ以上の身体機能の改善の見込みはない」が 66.0%、「身体機能の改善の見込みがある」が 31.1%となっている。

図表 6.5-13 状態の評価

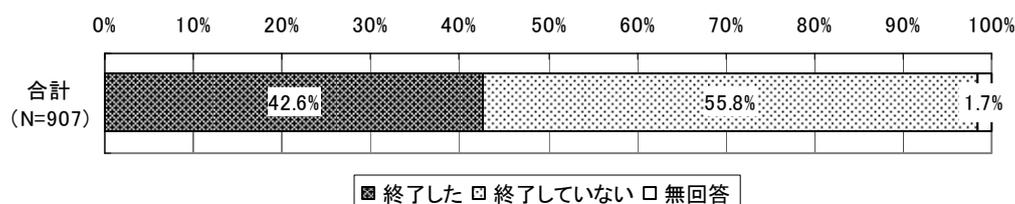


(8) 医療保険によるリハビリテーション後の対応

1) 医療保険によるリハビリテーション終了の有無

医療保険によるリハビリテーション終了の有無については、「終了していない」が55.8%、「終了した」が42.6%となっている。

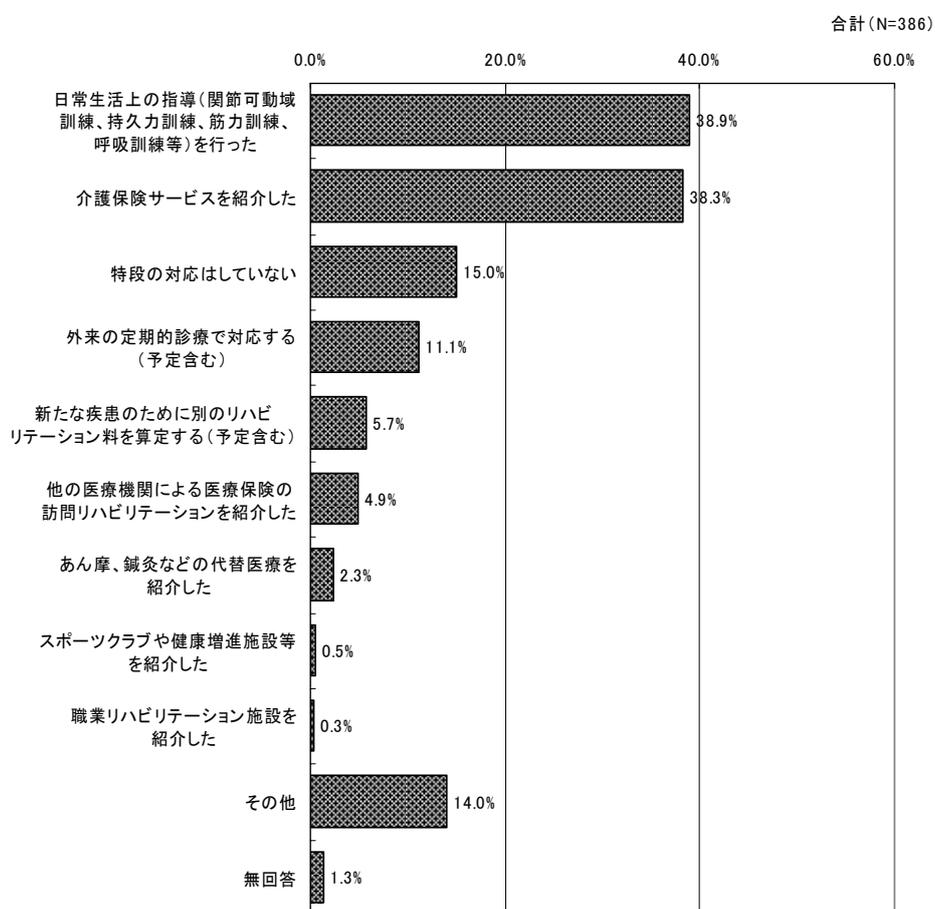
図表 6.5-14 医療保険によるリハビリテーション終了の有無



2) リハビリテーション終了後の対応（複数回答）

リハビリテーション終了後の対応については、「日常生活上の指導（関節可動域訓練、持久力訓練、筋力訓練、呼吸訓練等）を行った」（38.9%）が最も多く、次いで、「介護保険サービスを紹介した」（38.3%）となっている。

図表 6.5-15 医療保険によるリハビリテーション終了後の対応



(9) 代表的な疾患と算定日数の関係

代表的な疾患と算定日数の関係、及びその患者の内訳は次のとおりである。

算定日数上限前にリハビリテーション料の算定を終了した患者のうち、「身体機能の改善の見込みがある」とされた患者の割合が高い。これは、調査に回答した医療機関でのリハビリテーションが終了した患者が対象であり、実際にはその後、他の医療機関にてリハビリテーションを実施しているものと推察される。

表 6.5-1 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限前に終了)

	上限前（165日まで）					
	これ以上改善の見込みはない				見込みがある 身体機能の改善の	無回答
	能 態の維持が可 生活の場で状	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計 (N=182)	78	42	3	1	54	4
	42.9%	23.08%	1.7%	0.6%	29.7%	2.2%
脳梗塞 (N=77)	35	16	1	0	23	2
	45.5%	20.8%	1.3%	0.0%	29.9%	2.6%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群その他のリハを要する状態の患者であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力の低下及び日常生活能力の低下を来している患者 (N=55)	27	11	1	1	14	1
	49.1%	20.0%	1.8%	1.8%	25.5%	1.8%
脳出血 (N=17)	5	1	0	0	10	1
	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%	58.8%	5.9%
その他 (N=33)	11	14	1	0	7	0
	33.3%	42.4%	3.0%	0.0%	21.2%	0.0%

表 6.5-2 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限をもって終了)

	上限（166～180日）をもって終了					
	これ以上改善の見込みはない				見込みがある 身体機能の改善の	無回答
	可能 態の維持が可 生活の場で状	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計 (N=319)	16	32	3	2	7	1
	5.0%	10.0%	0.9%	0.6%	2.2%	0.3%
脳梗塞 (N=145)	10	16	0	1	5	0
	6.9%	11.0%	0.0%	0.7%	3.4%	0.0%

	上限（166～180日）をもって終了					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	可能 態の維持が 生活の場で状	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護対象	介護対象外	無回答		
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群その他のリハを要する状態の患者であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力の低下及び日常生活能力の低下を来している患者(N=84)	3	6	1	0	1	0
	3.6%	7.1%	1.2%	0.0%	1.2%	0.0%
脳出血(N=37)	2	5	1	0	0	1
	5.4%	13.5%	2.7%	0.0%	0.0%	2.7%
その他(N=53)	1	5	1	1	1	0
	1.9%	9.4%	1.9%	1.9%	1.9%	0.0%

表 6.5-3 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限後に終了)

	上限後（181日以降）					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	可能 態の維持が 生活の場で状	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護対象	介護対象外	無回答		
合計(N=42)	9	21	1	0	8	3
	21.4%	50.0%	2.4%	0.0%	19.1%	7.1%
脳梗塞(N=27)	7	13	0	0	5	2
	25.9%	48.2%	0.0%	0.0%	18.5%	7.4%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群その他のリハを要する状態の患者であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力の低下及び日常生活能力の低下を来している患者(N=3)	0	1	0	0	1	1
	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%
脳出血(N=5)	0	4	0	0	1	0
	0.0%	80.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
その他(N=7)	2	3	1	0	1	0
	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%

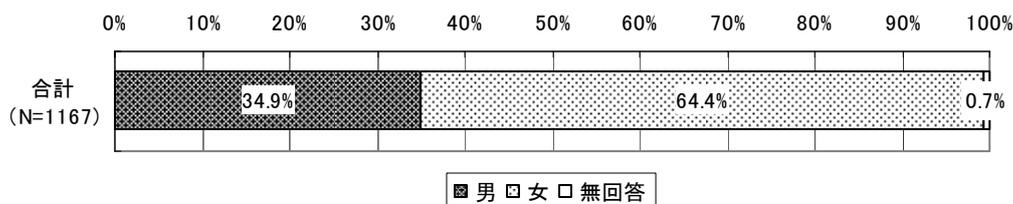
6.6 患者の状況(1)【施設向け患者調査票（運動器リハビリテーション）】

(1) 基本情報

1) 患者の性別

患者の性別についてみると、「女性」が64.4%、「男性」が34.9%となっている。

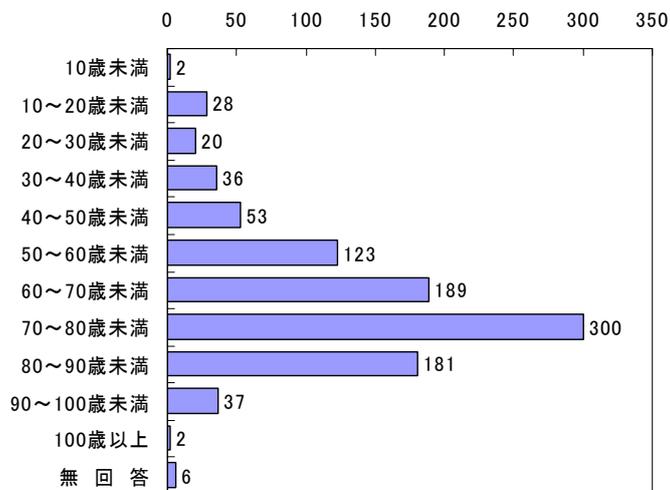
図表 6.6-1 患者の性別



2) 患者の年齢（平成 18 年 12 月 1 日時点）

患者の年齢についてみると、「70～80 歳未満」が 300 名で最も多く、次いで「60～70 歳未満」が 189 名となっている。

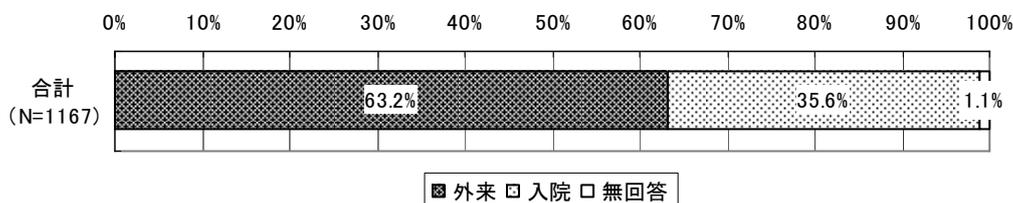
図表 6.6-2 患者の年齢（N=977）



3) 診療区分

診療区分についてみると、「外来」が63.2%、「入院」が35.6%となっている。

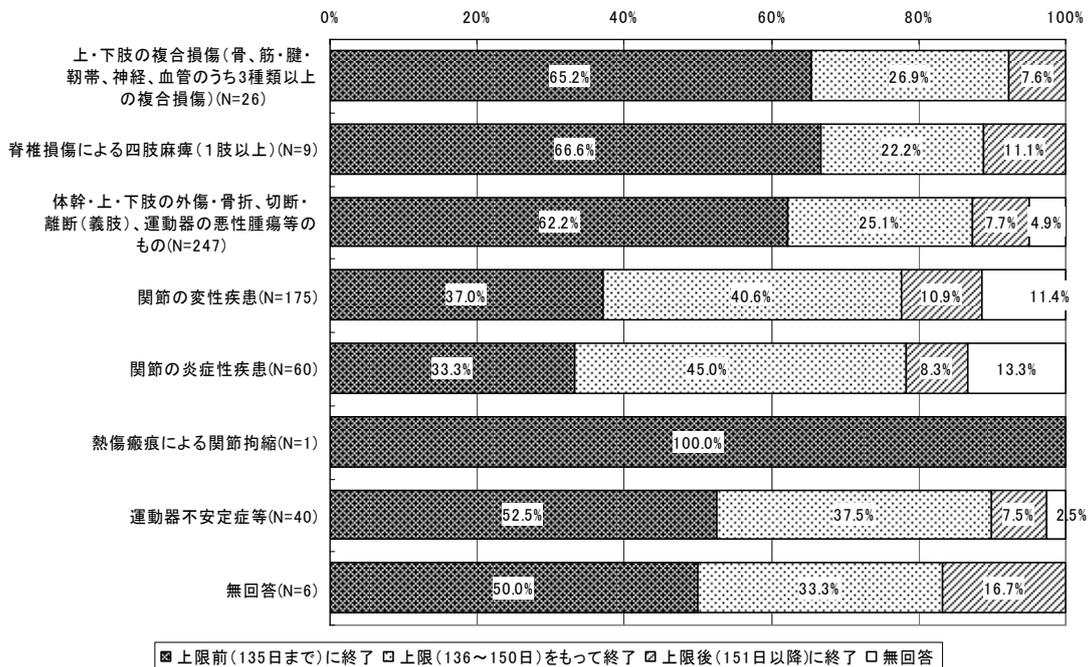
図表 6.6-3 診療区分



(2) 算定対象疾患と算定期間

平成18年4月以降に調査対象医療機関でのリハビリテーションを開始した患者における算定対象疾患は、「体幹・上・下肢の外傷・骨折、切断・離断（義肢）、運動器の悪性腫瘍等のもの」（247件）が最も多く、次いで「関節の変性疾患」（175件）となっている。10件以上のケースのある算定対象疾患について、算定日数の上限をもって終了した患者の割合をみると、「関節の炎症性疾患」（45.0%）が最も多く、次いで「関節の変性疾患」（40.6%）となっている。

図表 6.6-4 算定対象疾患と算定期間



(3) 除外疾患

1) 除外疾患の有無

除外疾患の有無についてみると、9.4%が「該当する」としている。

図表 6.6-5 除外疾患の有無

